

New Dynamic English

ニュー ダイナミック イングリッシュ 3



学習ガイド (中級)

モジュール 6

www.dyned.com

目次

はじめに.....	3
コースの構成.....	4
学習ガイドの使い方.....	5
学習の秘訣.....	6
レッスンの進め方.....	7
音声認識のレッスンを始める前に	9
音声認識機能の使い方.....	10
様々な人生 (Life Experience)	12
マトリックス ボキャブラリー (Matrix Vocabulary)	17
比べてみよう (Comparisons)	18
復習 (Review Exercises)	23
ビデオ会話 (Video Interactions)	29
付録1：音声認識機能に関する注意事項	31
付録2：Verb Markers	34
付録3：練習問題の解答	36

はじめに

ダイナミックイングリッシュが、より充実して新たに登場！クラスで実証された教授法に基づき、経験を積んだ指導者によって開発されたコースウェアです。このコースは語学を習得するのに最も重要な「聞き取り」に重点を置き、マルチメディアの効果を最大限に活用しています。それぞれのモジュールには、ネイティブの声で録音された数多くの聞き取り練習、さらにディクテーションや穴埋め練習などの様々な形で聞き取りの学習に焦点を置いた練習問題が入っています。それぞれのレベルに適した語彙と話題が慎重に選ばれ、順序立てて構成され、自然で生きた会話を習得できる様に工夫がなされています。

DynEd 独自のインタラクティブなプログラムによって学習者は自分のペースで学習ができます。学習中いつでも繰り返し聞いたり、日本語訳（ニューダイナミックイングリッシュ4を除く）、英文、用語表を画面に表示することが可能です。また、このコースの大きな特徴は音声認識機能を使ったスピーキング練習です。この練習によって、流暢に話す能力が着実に身につきます。更に、録音・音声再生機能を使って、自分の発音とネイティブの発音を聞き比べることもできます。音声認識機能を使用する前にこのプログラムの動作環境をご参照の上、お持ちのコンピュータで音声認識機能が使用可能であることをご確認ください。

コースの構成

レベル

ダイナミックイングリッシュの新シリーズには4つのレベルがあり、それぞれ2つのモジュールで構成されています。ニューダイナミックイングリッシュ1は、初級者を対象としています。ニューダイナミックイングリッシュ2は初級／中級の下、ニューダイナミックイングリッシュ3は中級レベルに焦点が置かれています。ニューダイナミックイングリッシュ4は中級の上、及び上級者を対象としています。

レッスン

ニューダイナミックイングリッシュには、いくつかの異なるタイプのレッスンがあります。「メインレッスン」では、何人かの人物が登場し、それぞれの生活や活動について紹介します。また、季節や気候、環境など一般的な話題について話し合います。「メインレッスン」に続く他のレッスンでは、「メインレッスン」で導入された単語や文法の復習をします。モジュール1の「Question Practice」では、質問文を作成することで理解力をより確かなものとします。モジュール2の「Matrix Game」では「Vocabulary Practice」のレッスンで学んだ語彙を復習します。それぞれのモジュールで学習する「Focus Exercises」は、文法に焦点を当て、「Dictations」と「Fill-Ins」は、表現や文法の細部を確認することにねらいを置いています。これらのレッスンは他のレッスンを学習した後にすることをお勧めします。「Video Interactions」では、電話での対応の仕方など日常起こるいくつかの場面を設定し、状況に適した表現を学ぶと同時に、ビデオの中の人物と実際に会話をすることでスピーキング能力を向上させることができます。

学習ガイドの使い方

この学習ガイドには、登場人物や文型、あるいはその両方を集中的に学習する方法など、それぞれのレッスンの重要な学習事項が紹介されています。まず最初にレッスンを一通り学習し、次に各文毎に文法や語句を何度も繰り返し学習してください。一度にいろいろなことを学ぼうとするのではなく、焦点を定め繰り返し学習することが大切です。

ニューダイナミックイングリッシュは、学習の進度に応じて語彙、表現、文法などの難易度が自動的に変化するよう設計されています。ですから、学習ガイドに提示された学習事項に沿って、レッスンの中のそれぞれの登場人物、文法、構文に焦点を絞り学習すると、より学習効果が上がります。

各インタラクティブセッションの復習として、学習した文を暗唱したり書いたりしてください。また、実際の日常生活の出来事などを英語で表現してみてください。最後に学習ガイドの練習問題に取り組み、巻末の解答と照らし合わせてください。

学習の秘訣

毎回 20～45 分間のインタラクティブ学習をお勧めします。最も効果的な学習をするためには各レッスンを何回も、できれば違う日に繰り返し学習することが望ましいでしょう。各レッスンでの学習累積時間とレベルは、Student Records（ユーザーズガイド参照）で確認してください。各レッスンでのレベルが 2.5 以上に達するまで学習してから、次に進んでください。

語学を学ぶことは、楽器を練習するようなものです。時間をかけて何度も練習、反復し、身につけてはなりません。各レッスンでより多くの時間を費やす程、多くのことを学ぶことができます。しかし、楽器の練習と同じ様に、効率良く時間を使わなくてはなりません。学習をする時は常にそのセッションの目標や目的を設定して行うと良いでしょう。そうすることによって、さらに集中した学習ができ、語学習得の長い道のりをより効果的に乗り越えることができます。

レッスンの進め方

(注) プログラムの始め方が分からない時は、ユーザーズ ガイドをご覧ください。
プログラムに慣れるために次の要領で最初のレッスンを学習してください。

1. 各文ごとに一時停止ボタンをクリックしてください。再生ボタンに変わり緑色の矢印が点滅します。
2. 再生ボタンが点滅している状態で繰り返しボタンをクリックしてください。同じ英文をもう一度聞くことができます。
3. 再生ボタンが点滅している状態で翻訳ボタンをクリックしてください。日本語訳を聞くことができます。
4. 再生ボタンが点滅している状態でテキスト表示ボタンをクリックしてください。英文テキストが表示されます。テキストの中のハイライトされた単語をクリックして用語表を参照してください。
5. 再生ボタンをクリックしてください。点滅がとまり、次の文に進みます。

(注) コースウェアに慣れるまでは、気がつかないうちにプログラムが止まった状態になっていることがあります。再生ボタンが点滅していると、プログラムは一時停止しています。プログラムを再開し先に進むには、点滅している再生ボタンをクリックしてください。質問されている時は、回答をクリックしてもプログラムを再開し、先に進むことができます。繰り返しボタン、翻訳ボタン、テキスト表示ボタンをクリックすると、プログラムは自動的に一時停止の状態になります。

	音声録音		繰り返し
	音声再生		一時停止
	テキスト表示		再生
	翻訳		巻き戻し
	終了		早送り

6. 前記のステップを各文でやってみてください。前の文に戻るには、巻き戻しボタンをクリックしてください。レッスンの最初に戻るには、一旦レッスンを終了させてください。
7. 理解力チェックの質問には時間制限があります。残り時間は、コントロールバーの右側に表示されます。回答に時間が必要なときは一時停止ボタンでプログラムを停止するか、繰り返しボタンを使って質問をもう一度聞いてください。
8. 初めの部分の文を何度か聞いた後に、今度は自分で言ってみましょう。巻き戻しボタンを使って最初まで戻ってください。
9. 録音ボタンを使って自分の声を録音してみてください。録音ボタンをクリックするとランプが緑色に変わります。録音が終わったら、音声再生ボタンを押して声を聞いてください。次に繰り返しボタンを押してネイティブの声と自分の声を比較してください。このステップはヒアリングとスピーキング練習に効果的です。文が長すぎて全部言えない時は、最初か最後の部分だけを言ってみてください。それでも難しくて言えない時は、状況をつかめるまで前後の文を何度も聞いてください。
10. それぞれのモジュールを終わらせるには数時間かかります。一度に全部学習するのではなく、20～30分毎に休憩をとることをお勧めします。
11. オプションメニューを使って用語表、学習記録、シャフラーレベルをチェックすることができます（詳しくは、ユーザーズガイドをご覧ください）。

音声認識のレッスンを始める前に

ニューダイナミックイングリッシュで使われている音声認識機能は、最新の画期的な機能です。音声認識機能を有効に使うことは、スピーキングの良い練習になります。

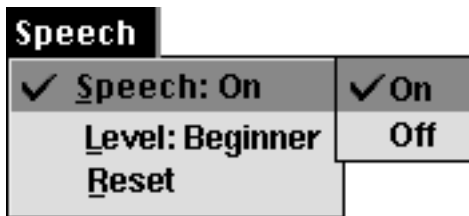
このコースでは、まずメインレッスンをマスターしてから次のレッスンに進んでください。リスニング力を充分養い、単語と構文を充分理解してから音声認識機能を使ったレッスンをする、より効果的な学習ができます。

音声認識機能が使用できるレッスンは、「Question Practice」、「Fill-Ins」、「Speech Practice」、「Video Interactions」です。レッスンに関する詳細はこのガイドブックかコースウェアの中のヘルプメニューをご覧ください。音声認識に関する詳細は、「音声認識機能に関する注意事項」をご参照ください。

音声認識機能の使い方



上の図はスピーチメータです。音声認識機能が音声を取り取っている間は、このスピーチメータが画面に表示されます。スピーチメータが表示されていない時は、音声を入力することはできません。



音声認識のスイッチを入れるときは音声認識メニューから on を選んでください。スイッチを切るときは off を選んでください。



音声認識停止ボタン：文を読み終わった時にここをクリックすると、音声認識機能が止まり結果がすぐ出ます。又、途中で間違いに気付いた時、ここをクリックするとスピーチメータが消えます。



スピーキングボタン：文を言い直す時はここをクリックしてください。スピーチメータが表示されます。



OK ボタン：音声認識後、認識された文とこのボタンが画面に表示されることがあります。文が読み上げた通りに表示されたら、ここをクリックしてください。文が読み上げた通りに表示されなかった場合、スピーキングボタンをクリックしてもう一度言ってみてください。



音声再生ボタン：音声認識されている間は、音声の録音も同時になされています。自分の声を聞きたい時は、ここをクリックしてください。

音声認識機能をご使用になる場合は次のことを確認してください。

1. 音声認識メニューにある難易度を確認してください。「中級」又は「上級」を選択すると的確なスピードと、より正確な発音が要求されます。「初級」を選択した場合、音声認識機能は初級レベルの発音でも正しいと見なすように設定されます。
 2. 文が正しいと認識されない場合、同じ言い方を続けしないでアクセントの位置を変えたり、文の読み方をいろいろと変えてみてください。速すぎたり遅すぎたりせず、はっきり言ってみてください。時には、“She is going...”と言わず、“She’s going...”と短縮形で言ってみたり、逆に“Here’re”ではなく“Here are”と言う方が良い場合もあります。
- (注) アクセントは特に大切です。例えば、fifteen は i にアクセントがある場合と e にアクセントがある場合があります、i にアクセントがあると fifty と間違えやすくなります。音声認識機能は単語の音のパターンを識別します。違う言葉でも同じ音のパターンの場合、その違いを識別できないこともあります。
3. 音声認識機能が動作しない時は次のことをチェックしてみてください。
 - *スピーチメニューの on/off スイッチが off になっていませんか。
 - *マイクロホンがこわれていませんか。
 - *マイクロホンが正しく接続されていますか。
 - *マイクロホンが口から離れ過ぎていませんか。
 - *スピーチメータが表示される前に言い始めていませんか。
 - *ボリュームが低過ぎませんか。

難易度の変更

音声認識メニューの「中級」又は「上級」を選択した場合、よりネイティブに近い発話が要求されます。なかなかうまく認識されない時は、「初級」を選択してみてください。

様々な人生 (Life Experience)

ここでは、過去の経験、現在の状況、将来の計画などさまざまな人生の出来事に関する表現を学習します。動詞の時制に焦点を当て、単純過去形、現在完了形、未来形、受動態などの正しい使い方を習得しましょう。

学習事項 1

「[Making a New Life](#)」をクリックしてください。Richard と彼の家族について学習します。Richard は過去 8 年間にどんな事をしたのでしょうか。主な出来事をリストにし、声に出して言う練習をしてみましょう。

期間を表現する **for** の使い方に注意してください。

*He has taught science at a small college **for** the past five years.*

*Before that, **for** two years, he was a graduate student at Newton University.*



学習事項 2

「[A Path to Success](#)」をクリックしてください。John について学習します。作家としての経歴と旅行に関する文を声に出して言う練習をしましょう。

His first book was rejected.

His next book was much better.

He has written several books.

Four of his books have been best sellers.



単純過去形（ He went to Japan and Korea）と現在完了形（John has traveled to many countries）の違いに注意しましょう。

Follow-up Practice

家族や友達としたこと、または、自分自身の経験を 2 つ挙げてみましょう。

例： *Three years ago my family and I went skiing for the first time.*

Last summer I started playing ____.

学習事項 3

「A Troubled Past」をクリックしてください。Jack について学習します。彼の人生ではどんな事が起きたのでしょうか。受動態の文を聞いて、声に出して言う練習をしてみましょう。同じ内容を意味する能動態 (The police arrested him) と受動態 (He was arrested) の違いに注意しましょう。



When he was eighteen, he stole a car.

The police caught him and arrested him.

That was the first time he was arrested.

Since then he has been arrested twice.

学習事項 4

それぞれのセクションをもう一度学習しましょう。at the same time、after about two years、a year later、since then など、いつ起きたのか言っている文を注意して聞き、声に出して練習してみましょう。

After only three months in London, she became a successful model.

During that time, their relationship got better.

Follow-up Practice

自分の過去 10 年間について書いてみましょう。まず単純過去形を用いて過去にしたことを書きましょう。次に、現在完了形を用いて色々な経験について書いてみましょう。

例: *In 1990 I went to _____. Two years later, I _____.*

Since 1990 I have lived in three different cities.

学習事項 5

レッスンをもう一度学習しましょう。hope、 wish、 would like などを使った将来に関する文を聞いて、声に出して言う練習をしましょう。

He hopes to return to Hong Kong someday.

He wishes he could start his life over.

He would like to have a family.

学習事項 6

「Questions」をクリックしてください。質問を聞いて、答えをクリックしてください。そのあと、正しいネイティブの答えを聞き、自分でも言って録音してみましょう。自分の発音とネイティブの発音を聞き比べてください。

文法 (Focus Exercises)

このレッスンは文法に焦点を当て、文を作る練習をします。

1. ボックスの中の適当な語句を下線部に移動し、正しい文を完成してください。
2. ボックスの中の語句には必要ないものもあります。気を付けてください。

? 130

He has _____ science there _____ the _____ five years.

for
past taught teach

Exit [mic] [speaker] [back] [refresh] [pause] [forward] [stop] [jpn] [volume]

練習問題

A. 動詞の正しい活用形を使って空欄を埋めましょう。

John (be) is a well-known writer. He (write) _____ several books. Four of his books (be) _____ best-sellers. Now John (write) _____ a book about the life of Mikhail Gorbachev. John (like) _____ to travel. He (travel) _____ to many parts of the world. When he was eighteen years old, he (go) _____ to the U.S. and Canada. A year later he (go) _____ to Japan and Korea. Since then, he (go) _____ to a different country every year.

B. 正しい単語を○で囲みましょう。

例 : John worked for a large company (for , since) six years.

1. When John was nineteen he went to Japan and Korea. (After, Since) then, he has been to a different country every year.
2. Richard has taught science (for, since) the past five years.
3. Richard and his girlfriend came to England eight years ago. (After, Since) about two years they got married.
4. They have lived in England (for , since) almost eight years.

C. 次の文を受動態を使って書き換えましょう。

例 : *They kicked Jack out of school.*

Jack was kicked out of school.

1. The police have arrested Jack three times.

2. They caught Jack and put him in jail.

3. The publishers rejected John's first book.

4. The government gave Richard a grant to study in the U.K.

D. **hope**、**wish**、**would like to** のいずれかを正しい形で空欄に入れましょう。

例 : *Richard hopes to return to Hong Kong someday.*

1. John _____ have a family.

2. Jack _____ he could start his life over.

3. John _____ to get married within the next two or three years.

4. Richard _____ contribute to the future of Hong Kong.

マトリックス ボキャブラリー (Matrix Vocabulary)

語彙の習得 (Vocabulary Practice)

このレッスンでは、語彙の習得と聞き取りに焦点を当てています。5つの課題に関する語彙を楽しく効果的に学習しましょう



まず、画面左側にあるグラフィックのどれかをクリックして課題を選んでください。選ばれた課題に関するグラフィックが表示されます。それぞれをクリックして文を聞いてください。聞き終わったら「Quiz」をクリックして質問に答えてください。

課題を変えたい時は、画面左側のグラフィックをクリックして選び直してください。

マトリックス ゲーム (Matrix Game)

「Vocabulary Practice」で学習した語句や表現を復習するレッスンです。質問を聞いて正しい答えをクリックしてください。持ち時間は3～5分です。時間内になるべく多くの質問に答え、終了したら得点を確認してください。何回も挑戦して得点を伸ばすようにしましょう。

比べてみよう (Comparisons)

ここでは、人物、場所、物の相異点や類似点をどの様に比較するかを学習します。年齢、値段、身長、体重、距離、気温、人口、面積などの量や寸法に関する言葉を習得しましょう。

学習事項 1

「Price and Quality」をクリックしてください。バイオリンの年代、値段、音色について見てみましょう。どのバイオリンが一番古いか、どのバイオリンが一番新しいか、どのバイオリンが一番高いか、どのバイオリンが一番安いかに述べている文を声に出して言う練習をしましょう。the most と ~est の使い方に注意してください。



The one on the left is the newest. It was made in 1990.

This violin is the most expensive. It costs \$50,000.

学習事項 2

「Three Sisters」をクリックしてください。Barbara、Susan、Mary の3人姉妹について見てみましょう。年齢、身長、体重を表している文や、姉妹を比較している文を声に出して言う練習をしましょう。比較の文を作る ~er than の使い方に注意しましょう。feet または inches の単語をクリックすると、フィートとメートルの関係を表す換算表が表示されます。類似を表す both と the same の使い方に注意しましょう。



Barbara is twelve years old. She is five feet, two inches tall.

Susan is a little older than Mary. Mary is ten pounds heavier than Susan.

They are both seven years old.

They are the same height but they don't weigh the same.

Follow-up Practice

友達やクラスメートのうち3人を比較してください。

学習事項 3

「Country Data」をクリックしてください。オーストラリア、イギリス、アメリカの3カ国の面積や人口を比較している文を聞いてみましょう。大きな数字が含まれた文を声に出して練習しましょう。

The U.S. is about 500,000 square miles larger than Australia.

Australia is larger than England, but smaller than the U.S.

England is much smaller than Australia, but its population is much bigger.



学習事項 4

「Four Cities」をクリックしてください。Max が訪れる可能性のある、3つの都市を見てみましょう。それぞれの都市に関する質問文を注意して聞き、声に出して言う練習をしてください。How much warmer...? How much farther...? などの質問に特に注意しましょう。

Which city is the farthest from San Francisco?

How much warmer is it in Sydney than in London in January?

It's 17 degrees warmer in Sydney.



学習事項 5

特に質問に注意しながら4つの項目をもう一度学習しましょう。質問文を声に出して言う練習をし、自分の声を録音してネイティブの声と比較してみましょう。

Which violin costs the most? When was the newest one made?

Who weighs the least? Whose hair is longer, Susan's or Mary's?

Which country is larger than England but smaller than the U.S.?

Follow-up Practice

このレッスンで学習した表現をできるだけ多く使って、あなたが知っている3人の人あるいは3つの場所を比較する練習をしましょう。

文法 (Focus Exercises)

このレッスンは文法に焦点を当て、文を作る練習をします。

1. ボックスの中の適当な語句を下線部に移動し、正しい文を完成してください。
2. ボックスの中の語句には必要ないものもあります。気を付けてください。



練習問題

A. 比較級か最上級を使って文を完成させましょう。

例 : *Barbara is 12. Susan is 7. Barbara is older than Susan.*

Barbara is taller than Susan and Mary. She is the tallest.

1. The violin made in 1880 is older than the other two violins.
It is _____.
2. Susan and Mary are four feet, four inches tall. Barbara is five feet, two inches.
They are _____ Barbara.
3. Barbara weighs 95 pounds. Mary weighs 65 pounds.
She is _____ Mary.
4. Barbara is heavier than Susan or Mary.
She is _____ of the three.
5. Australia has a smaller population than either the U.S. or England.
It has _____ of the three countries.
6. The United States has a larger population than Australia or England.
It has _____.

B. 文を完成させましょう。

Distance from San Francisco			
San Francisco to New York:		2,600 miles	
San Francisco to London:		5,400 miles	
San Francisco to Sydney:		7,400 miles	
Average temperature in January			
San Francisco:	10° C	London:	4° C
New York:	0° C	Sydney:	21° C

例 : *Sydney is 4,800 miles farther from San Francisco than New York.*
 In January, New York is four degrees colder than London.

1. Sydney is _____ from San Francisco than London.

2. In January, Sydney is _____ New York.

3. Mary is seven years old. Barbara is twelve.

Mary is _____ Barbara.

4. Barbara is five feet, two inches tall. Susan is four foot four.

Barbara is _____ Susan.

5. Violin B costs \$5,000. Violin A costs \$2,000.

Violin B _____ violin A.

6. Violin C was made in 1880. Violin A was made in 1990.

Violin C is _____ violin A.

復習 (Review Exercises)

ディクテーション (Dictations)

このレッスンでは重要な単語や語句に焦点を当てて学習します。最初に、レッスンの中の文章が4つ読み上げられます。次に画面が変わり、画面上部に15の語句が表示されます。画面下部には所々空欄がある文が表示され、読み上げられます。



次の順序に従ってディクテーションを進めてください：

1. 文頭の番号をクリックするか、繰り返しボタンを押して文をもう一度聞いてください。繰り返しボタンを使うと、プログラムは一時停止した状態になるので十分な時間をとることができます。
2. 文中の空欄に当てはまる単語を画面上部にある単語の中から見つけクリックしてください。選ばれた単語が赤い枠で囲まれます。次にその単語の入る空欄をクリックしてください。空欄に選んだ単語が入ります。間違いに気が付いた時は、同じ要領で別の単語をクリックして単語を入れ替えてください。
3. 残りの空欄に単語を入れてください。どの順番で単語を入れてもかまいません。
4. 同じ要領で、2～4も進めてください。

5. 文が完成したら“SCORE”をクリックすると、各文が読み上げられ得点が表示されます。その際、赤で表示された語句は間違いです。
6. 得点が 65% 以下の場合にはもう一度やってみたいかどうか聞かれます。“Yes”をクリックするともう一度最初からディクテーションをすることができます。
7. 得点が 65% 以上の場合は、各文をもう一度聞いて、画面に表示された文を確認してください。赤で表示された単語は間違いです。正しい単語を入れ直してください。
8. 例えば、1 番の文を修正したい時は、まず番号をクリックして文を聞き直してください。次に正しい答えをクリックし、訂正したい文中の単語をクリックします。正しい選択の時は単語が白に変わります。
9. 間違いを直したら、“END”をクリックしてください。同じディクテーションにもう一度挑戦するか、他のディクテーションに進むか聞かれます。また、ディクテーションを終わりにしてメインメニューに戻ることもできます。

穴埋め練習 (Fill-Ins)

1. 文を読んで、空欄に入る正しい答えを、表示された4つの単語から選んでください。その際、画面のグラフィックスを参考にしてください。



2. 答えをクリックするか、音声認識を使う場合は、答えを空欄に入れた形で文を読んでください。音声認識機能は、文を聞き取るように設定されていますので、選んだ単語だけを読むのではなく文全体を読んでください。
3. 文を読み上げると、その文が画面に表示されます。表示された文が読んだ文と同じ時は、「OK」をクリックしてください。表示された文が読んだ文と違う時は、スピーキングボタンをクリックし、スピーチメータが画面に表示されてからもう一度読み直してみてください。音声認識機能に関する詳細は、コースウェアのヘルプメニューの「音声認識」をご参照ください。
4. 自分の声とネイティブの声を比較する時は、音声再生ボタンを使ってください。発音を聞き比べることはとても大切です。
5. それぞれの穴埋め問題に答えると解答が表示され読み上げられます。黄色くハイライトされた答えをクリックするとその単語に関する説明が画面に表示されます。頑張ってください。

スピーキングの練習 (Speech Practice)

グループ 1 : Sentence Reading

1. 画面に表示された文を一文ずつ読んでください。その際、どんな順序で読んでも構いません。
2. あなたが読み上げた文が認識された時は、その文がハイライトされもう一度読み上げられます。
3. 認識されない時は、もう一度やってみてください。文頭のスピーカボタンをクリックするとネイティブによる正しい発音、イントネーションを聞くことができます。
4. それぞれの文は、何度でも練習することができます。次の画面に進むには画面右下の矢印のボタンをクリックしてください。



グループ 2 : Answering Questions

1. 質問をよく聞き、画面に表示されている文を読んでください。
2. 質問に対する正しい答えを選んでください。考える時間が必要な時は、一時停止ボタンを使ってください。再生ボタンをクリックすると、プログラムは再開されます。
3. スピーチメータが画面に表示されたら答えを読み上げてください。それぞれの文の前のボックスか文自体をクリックして答えることもできます。
4. 読み上げた文が正しい答えか否かにかかわらず、文が認識された時は文の前のボックスにチェックマークがつけます。
5. 正解の場合は、その文がハイライトされます。



グループ 3 : Speech Quiz

1. グループ 1 ～ 2 の中の問題が 1 5 問アトランダムに出ます。
2. 得点は、画面の右上に表示されます。但し、グループ 1 の問題では同じ文を何回でも読むことが出来ますが、最初に認識された時にだけ得点が加算されます。
3. それぞれの問題は、他のグループの答え方と同じです。

ビデオ会話 (Video Interactions)

このレッスンでは、あなたが学習してきた英語を、ネイティブの人々が実際にどのように使っているのかをビデオで紹介します。又、ネイティブの人々と英語で話すのがどういうものなのかを実際に体験することができます。ここでは、電話での対応の仕方やその他、日常生活の様々な場面で役立つ表現を学習します。



学習は次の要領で進めてください：

1. まず、それぞれのセクションの会話を一通り聞き、大体の内容を把握してください。その際、人物の表情や動作にも気を付けてください。
2. 会話文をもう一度、一文ずつ繰り返し聞いてください。また、テキスト表示ボタンを使って文をよく学習してください。ハイライトされた単語をクリックすると用語表が表示されます。単語の意味や例文などを読み、語彙の学習もしてください。ハイライトされていない語句でわからないものがあれば辞書を使ってください。
3. 今度は文を声に出して言うてみる練習です。最初は文を全部言おうとせず、短い句に区切って言うてみてください。

4. セクションにより「Interactive」の場面が含まれています。「Interactive」の場面では、あなたがビデオの中の人物になって会話をします。ビデオ・スクリーンの右側に文が表示されたら、その中から適当なものを選んでください。表示された文の中には、会話のその場面に適切なものが複数含まれていることがあり、その場合はどちらを選んでも正解です。スピーチメータが画面に表示されたら、できるだけはっきりと文を言ってみてください。音声認識を使わず、選んだ文をクリックして答えることもできます。音声認識に関する詳細は、ヘルプメニューをご参照ください。
5. 「Hot Seats」をクリックしてください（このセクションが含まれていないモジュールもあります）。「Hot Seats」では、あなたがビデオの中の人物と会話をします。ビデオ・スクリーンの右側に質問文が表示されたら、聞きたい質問を選んでください。ビデオ・スクリーンの人物が答えてくれます。

付録1：音声認識機能に関する注意事項

指導者の方へ

ダイナミック イングリッシュで使われている音声認識機能は、最新の画期的な機能です。音声認識機能の性能を十分に理解し、この新しい技術を最大限に活用していただく為に、以下の点を念頭においてご指導ください。

1. 音声認識機能を有効に使うことは、スピーキングの良い練習になります。しかし、正確な発音を指導するという事に関しては、まだ技術的に限界があります。音声認識機能を使ったレッスンを繰り返し学習することで確かに発音は上達しますが、発音矯正の為のコースではありません。
2. 制限時間内に答えたり、マイクロホンの正しい使い方に慣れるのに時間がかかります。充分練習してください。
3. マイクロホンは適切な位置に置くようにしてください。近すぎたり遠すぎたりすると正しい結果が得られません。
4. 音声認識機能が正しく動作しない場合は、画面上部の音声認識メニューの中のリセットを使って音声認識機能を設定し直してください。また、一旦レッスンを終了し、メインメニューに戻ると音声認識機能は、自動的に設定し直されます。
5. 音声認識のレッスンを声質の違う学習者が交代で使うと音声認識機能が正しく動作しないことがあります。学習者が代わる時は、音声認識メニューのリセットで音声認識を設定し直すか、一旦レッスンを終了し、メインメニューに戻ってください。

指導にあたっての注意事項

音声为正しく認識されにくい時は、以下のことをご指導ください。

1. スピードを変えて読むようにしてください。
2. 例えば “he is going” を “he’s going” と短縮形で読んでみてください。また逆に、“where’re you from” を “where are you from” と一つ一つ読んでみてください。
3. 何回しても単語が正しいと認められない場合、アクセントを変えてみてください。例えば、fifteen は i にアクセントがある場合と e にアクセントがある場合があり、i にアクセントがあると fifty と間違えやすくなります。
4. 難しい発音の仲間を見つけ出してください。例えば her と are は両方とも r の音で終わります。このような難しい単語は、ネイティブの発音をよく聞くようにしてください。
5. 画面上部にある音声認識メニューの「上級」が選択されている場合、音声認識機能は発音に対してかなり厳しくなり、選択されていない場合に比べると日本人の学習者では、正解率は 10～15 パーセント低くなります。
6. 音声認識メニューの「上級」が選択され、ネイティブスピーカが妥当なスピードで鮮明に発音した場合、正解率は普通 85～95 パーセントです。初級の学習者で音声認識メニューの「初級」が選択されている場合、最初正解率はだいたい 60～80 パーセントですが、練習することによってかなり上達します。自信がついたら「中級」から「上級」へと進めてください。
7. 音声認識機能を使って学習しているときは、できるだけ録音された自分の声を聞くようにしてください。音声再生ボタンをクリックして自分の声を聞き、次に繰り返しボタンをクリックしてネイティブの発音と聞き比べるようにしてください。音声再生ボタンと繰り返しボタンは何度か使用しているうちに慣れてくるはずです。

学習者の方へ

このコースウェアは、音声認識機能を使って楽しく効果的にスピーキングの練習をすることができます。明確な発音と流暢な話し方を上達させると同時に、重要な文の構成をさらに学習し、語彙を増やします。最初にメインレッスンで録音機能を使って自分の声とネイティブの声を聴き比べる練習を充分してから、音声認識機能を使ったスピーキングの練習をしてください。音声認識機能は、正しいと認められるのにある程度の流暢さと速度を要求されるので、英会話の初歩の方には少し難しいかもしれません。

付録 2 : Verb Markers

ニューダイナミックイングリッシュの用語表には、次の様な 5 つの verb markers が表示されます。

- | | |
|---------------------|----------------------------------|
| 1. V(d) | lived, ate, came, was, had, went |
| 2. modal | will live, may eat, can go |
| 3. have+V(n) | has lived, has eaten, has been |
| 4. be+V(ing) | is living, is eating, is going |
| 5. be+V(n) | is eaten, is sold, is converted |

上の表で V(d)は過去形、V(ing)は進行形、V(n)は過去分詞を表わします。下の表はその幾つかの例です。

V	V(d)	V(ing)	V(n)
be	was/were	being	been
work	worked	working	worked
speak	spoke	speaking	spoken
eat	ate	eating	eaten

verb marker は単独で使ったり、組み合わせて使い新しい動詞を作ったりします。例えば動詞 eat を marker 1 に当てはめると ate (He ate dinner) となり、marker 4 にあてはめると、is eating (He is eating dinner) になります。marker 1 と marker 4 を合わせると、was eating (He was eating dinner) となります。もし、5つのうちのどれにも合わせられないと、単純現在時制 (He eats dinner every evening) という事になります。

次は 2 つの verb marker を組み合わせて使った幾つかの例です。

1+2 V(d) modal	could go, might come, would sell
1+3 V(d) have+V(n)	had gone, had come, had sold
1+4 V(d) be+V(ing)	was going, was coming, were selling
1+5 V(d) be+V(n)	was made, was eaten, were sold
3+4 have+V(n)be+V(ing)	have been living, has been selling
3+5 have+V(n)be+V(n)	have been eaten, have been sold

verb marker を組み合わせて使う時は、小さい数の marker が大きい数の marker の前に位置します。例えば、動詞の sell を marker 3 と marker 5 と組み合わせた場合は、3+5 has been sold というように marker 3 は marker 5 の前に来ます。marker 5 が marker 3 の前に来て 5+3 be had sold となるのは誤りです。

verb marker についての説明は、各 verb marker の用語表の画面を参照してください。

付録 3 : 練習問題の解答

様々な人生 (Life Experience)

練習問題 A

John is a well-known writer. He has written several books. Four of his books have been best-sellers. Now John is writing a book about the life of Mikhail Gorbachev. John likes to travel. He has traveled to many parts of the world. When he was eighteen years old, he went to the U.S. and Canada. A year later, he went to Japan and Korea. Since then, he has gone to a different country every year.

練習問題 B

1. since
2. for
3. after
4. for

練習問題 C

1. Jack has been arrested three times.
2. Jack was caught and put in jail.
3. John's first book was rejected.
4. Richard was given a grant to study

練習問題 D

1. would like to
2. wishes
3. hopes
4. would like to

Copyright © 2003 DynEd International, Inc. All rights reserved.

QuickTime™とQuickTimeロゴは法的に使用許可を得た商標です。

Version 3.0

1/00